







《Personal Sound Effects 参加者募集のお知らせ》

☆《Personal Effects》の音版=カセットテープを作ろうってわけで、参加者を募集します。

☆内容はなんでもいい。ってことは、自分の作品でなくてもいいってこと。画期的でしょ(でもないか)。最近(のほうがよい)面白かった曲とか、拾ってきた音とか、TVやラジオからの録音でもいい。もちろん、自作結構。喋りもいいですね。

☆録音時間も特に制限しません。ま、あまり長すぎると大勢収録できないから程々の長さにしてくれたほうがいいけど。

☆発表はできれば月イチのペースでいきたい。毎月25日必着で下記の住所に参加作品を送ってください。テープ返却を希望する場合は、その旨お知らせください。

☆テープは集まった作品の長さの合計に応じて30分とか46分とか、最適の長さのものを選びます。

☆原則として先着順に収録しますが、結果的にちょうどいい長さのテープに収まり切れなかったときは次回に回すとか、集まりが悪かったときは締め切り過ぎてもちよっと待つとか、臨機応変にやっています。

☆テープの頒布方法：参加者には1本送ります。このテープ代及び送料は、当面は編集者が負担しますが、いずれ経済的に苦しくなるのも困るので、実費で返すか、あるいは空テープ+送料相当の切手で等価交換ってことにしたい。参加はしないけどテープはほしいっていう人は、最初から等価交換方式でお願いします。

☆参加者にはテープが完成次第お送りします。その他の人へは《Personal Effects》紙上でテープの長さや内容などをお知らせします。

☆以上が当面のやり方ですが、より適当なやり方が見付かったら、適宜修正していきます。

☆参加作品の送り先：〒166 杉並区高円寺北3-22-8 碓氷ハウス2F 藤本和男

☎03-310-5842 問い合わせ先も同じです。では、よろしく。

19850929



## 《ある男の人生》

その人は盛岡出身で、30才までから脱サラして事業のまわしを  
 始めました。奥さんと子供(女の子)が1人いました。ところが安易に  
 脱サラしてたもので、事業にやりくりがうまくつかなくなり、秋田の方へ  
 金策に出掛けたいのです。でもあまりうまくいかず、夜に飲み屋  
 へ出た所、<sup>とりに</sup>同席した人がやはり若くて脱サラした人だったの  
 で、意気投合した話です。で、その人は北海道で牧場みたいな  
 ところを、盛岡の人よりずっと羽振りが良いとんです。それで  
 自分の方はうまくいってないところをこぼしたところ「じゃあうちの牧場  
 の事業所にこまうか」みたいなことをいわれて、自分の方は限界  
 が感じられたもんだから、それじゃあ、という事で、やはり北海道の  
 まんちあたりへ単身で行っちゃったのです。盛岡の方へ  
 は月に仕送りするから、ということにして。ところが、行って  
 みるとその牧場というのもちよ、と怪し気なもので、牧畜業  
 よりも観光案内とか不動産の真似事みたいなものかまで  
 経営自体も話よりはまぶな状態でした。それで秋田の  
 友だち、その人も留守状態で、金策してんたか遊び先でし  
 たら、かしくわかんない。経営は人にまかせられるしつたのです。  
 そのうちにその人は女をつら、と逃げちゃった。奥さんを置いて、  
 で盛岡の方は実質的に牧場(?)を管理する破目になる

5  
 10  
 15  
 しまし、仕送りをしてもらい、えいごもした。で、そのうち  
 に奥さんまでいきちゃったのですか。丁度その頃、若いアメリカ  
 人が、ヒップハイプでその牧場まで来て、突然に「雇って  
 くれ」というんです。少し困ったけど、若い奴じゃなかったから  
 下働きさせることにしました。ところが、しばらくしてまた突然  
 5  
 行方不明になってしまった。どうも自殺の可能性もあるんです。  
 荷物は殆んど残して残してしまいました。で、困って警察に調  
 べてもらった所、行くと関西の方のどこかの米軍基地から  
 脱走した奴だ、ということもわかったのです。こういう訳か、盛岡  
 の彼が残した荷物とその基地まで届ける破目には  
 10  
 行って一人で行くのです。で、基地で担当の将校にあう  
 人ですか、こいつがまたやけに日本語のうまいやつで、妙に親  
 切で、米軍基地内をいろいろ見せてくれた上に食事まで  
 くれる、訓練（とい、これも教室内での）もみせてくれる、で  
 15  
 変な感じも覚えました。帰りは彼自身が車で送って  
 くれる（バス停まで）人ですか、どうも腑におちるなあ...  
 という所まで目が醒めました。またゆめではあることを  
 望みます。しかしおそろしくリアルな夢、まさしく荘子の  
 胡蝶の夢（やろいかと思、しよう。しかし詳細に検討すると  
 各所にモデルが、存在するのかもしれない、それだけ。



5 10 15  
 《刺した筈のセゲが見られた話》

先日所用で他人の車に同乗してうちの家内の勤めている所の  
 傍をおついでです。で、次の日、家内が「きのう~~私~~<sup>私</sup>の勤め  
 先の側を黒い大きな車にのせてもらって通つたでしょ」とい  
 うかき肯定したところ、「友だちが見てたんだって。セゲをはやし  
 てたからさくねかしたといっていた」という。黒い大きな車に  
 のっていて、<sup>場所と</sup>目撃された時刻もはっきりしたので、そこまでは  
 良い。問題は私のセゲです。2週間前に刺り落ちて  
 いるのです。す、かり。...可能性①全く同時刻、同所に  
 同じような車の助手席に私にそっくりな人だけがセゲを  
 はやしていた人がのっていた。②セゲ自体の残留思念が  
 あった。③私のその日の記憶は全く後から想像されたに  
 すぎぬもので、セゲはその日にあっていた。④セゲを生  
 やした私がもう一人いて、<sup>の夜</sup>殆んど同時に同所にいた⑤目撃者  
 の記憶にセゲが生えた。⑥目撃者は2週間以上前  
 に同じような状況にそっくりしていて、その後同じような状況が  
 再現された時に記憶がゆづつてしまった。(只しこの場合  
 2週間以上前に目撃されたのは私か、私によく似た人がもう一  
 人の私かよくわからぬ。) (→ついでに2度目に目撃された時に  
 もその3つがある。) ⑦家内がさういふ記憶と想像していった。  
 の可能性。

⑤ 未知、家内が、そう、たと思つた ⑨、⑦と⑧の混合ダブルス。  
 ⑩、②と⑧、それそれについて、①～⑥の可能な想像が働いた。  
 …… その時以来、私は同撃者というものを信じなくなるで  
 した。もうひとつ思い出したのは、先日竹田賢一さんと  
 会つた時「7～8年前、金野君とはじめて会つた時、坊主刈  
 にしてゐたあの印象があった。しかもその次に会つた時は『あ  
 かりの強いのたね』と思つた記憶がある。確か半分判  
 りくつた、たね』といふたが、実はこれからは生まれてから  
 一度も坊主刈りをしたことはない。この話からまたいつの  
 りの可能性をとりたせざるを得ない。たつたかおえあることと  
 して、『私の毛は時空をこえ、人の記憶を自在に ~~往来~~  
 往来できる、何か一種特別の毛なのではないか』という  
 事です。(cf ②、⑤)「人間の体は毛穴の回りからできている」  
 (才五郎の Black Bibleより)

### 《驚いたこと》

先日、「Space Vampire」を見に行つた。たきあおせはイラジレ  
 製アメリカ映画「Growing Up, Vol. 6」であった。全然つまらな  
 いたか、浜辺で裸の子供達(4,5才～7,8才)がオシッコ  
 をしているシーンがあり、オチンチンかうつたが、贅、割礼  
 されてゐたのにはあたりまえのことかもしないか。強く「エタチ  
 ってヤダヨ」と思つた。



《Personal Effects による ~~ひび~~ <sup>こ</sup>こされた another personal effects》

- 大前節のミューズックマガジン (そのニュー・ミューズック・マガジンと名づけていた頃) に、横尾忠則の書いた記事が載っていた。これは彼がその当時、思い入れをしていたイギリスの特異なバンド Third Ear Band (僕も大好きなバンド) についてのエッセイだった。その扉絵に若沖の「付喪神のむね」が使われていて、幼少心に (幼くても分かるが、14~5の頃かな...) 不思議な絵だったことを記憶している。もちろん(?) 若沖の絵を知り由もなかったし、説明もついていなかった。(なんとなく横尾の作品かな、と思っていた)。P.E. Vol. 4 を読んで初めて、封印がとかれたような安んじを得たことに報告する。
- 3月10日に雀が猫にくわえられなくなったこと <sup>(書かれた)</sup> ~~が~~ したが、前後して、実家の猫がやはり雀をくわえしめたものをとらえて、ころがして遊んでいた。家人は気味悪がってやめさせることが出来ていない。それもその筈で首と足らしき部分だけになっている。果して私がそれを捨てる役をおまかせつかったらどうか、よく見たところ、その雀の首はハゲセイのそれであった。しかし雀のハゲセイはどこにあつたのだろうか? 頭の中は紙くすみのような感じのまじりだ。ということも報告する。
- 「金縛り」について昔、誰かに刃物や鉄釘などの金物を枕の下に入れておくよという話を聞いた。これは暗示の為の支持体なのか? // Morning Erection についてはこういう説明もあり得る。射精中枢と排尿中枢が脳内で比較的近い距離にある。そのため、朝の排尿を促す刺激が、射精中枢に影響を及ぼして勃起してしまう。これを spatial summation とかいうらしい。~~また~~ 逆に、射精の後、排尿が促進されるのは時間的に近づいて神経が興奮するシステムがあり、これは temporal summation というらしい。これを報告する。

定期券をなくして。10年くらい定期を使っていた生活していたのに、なくなるとのははじめてだ。社会生活を営む者としての資格をなくしたような気分になる。マシといえば最近仕事上のやり取りが多い。毎月も計算まちがいで1500円ほどのマケスにしている。これもこれで3ヶ月くらい。~~おかしな~~  
公民館運動2回目では1人しかいなかった。めんどくさいことばかりで、みんなかたかたおかしな感じで、最中に1人で帰ってしまった。やること自体しょうもないことだったけど、やる意欲、というか、勢いもなくなってきた。手もなくから、ほのことに熱を入れてやる。というのは好き家のせいかなとわかった。昔の交わりしがいについて感じもした。

Another Personal Effects には、てひきお二まは。 An Other Personal Effect

☆ 若冲の「付喪神のおれ」は、京都在住のその道の大家であり(どの道かは忘れた) 好事家でもある某氏の所有せるもので、拝見したいとお願いしたのだが、 慈善事業をやっているわけではないので、と断わられてしまった。 下は最近見つけた若冲の「鳥獣草花園」。CG風と評していた人がいたが、 内にこもりすぎた個性は時代をつまぬけるということか。 これは個人蔵、誰かがどこかで必ず見てこっそり楽しんでる。



♪ 金野氏からの雀の報告が来た日、私も道立端に横たわりうつろな眼を もう飛べなくなってしまう空に見開いている雀のミウを見た。向く所によくと四国の松山市内では、夏あまりの暑さに耐えかね、電線の上の雀が どんどん黒コゲになって焼け落ちてくるという。 金野氏の話は、「頭の中は紙くずのような感じのものだった」というくだりか とても無気味なので、できれば、創作だと思いにみたい。 うちの猫の前に、いけいんのうぐいすが置いてあるので、手に取ろうとしたところ、 ああというまにそれは飛んでいってしまった、ということがあったけ。





## ☆九月の外出

- 13日 万有引力展・劇団万有引力のオアジ・写真・絵などこぼら驚くものなし  
(銀座) ヒゲマ春夫展・ビデオ「水の響」は妙しだけ面白い。蚊帳に包まれたような空間良し。  
(渋谷) 本日の本命「欲望のあいまいな対象」を見ようと映画館へ行くが、見たかったのは「自由の幻想」だったことが入口でわかりがくり。見ないで帰る。
- 15日 野外コンサート。雨の中。REALは以前見た時より何か物足りない。  
(満和) ソドムは初めて。花火を使うのは好きだが演奏は興味なし。Pモデルも見るのは初めて。なかなかアクションはまわっているけれど曲が少し単調。水玉は、前回に比べて少しは歌詞が聞きとれたので、それが面白いようなことがわかる。水玉の中のハネムーンズの部分がスリリングで女子きた。
- 20日 「風の旅団」を二度見る。3時間以上のこんな面白いものか1500円  
24日 (い幡山) で見ることで済むのはうれしい。火と水のスペクタクルはいつも  
の如く。今回は特にセリフの美しさに驚いた。シテキな。伏目がちな死んだ魚と海と空と瞳の関係。内臓を食われる話も面白かった。装置としてのテント内テントも好き。役者がこのテントのどき自分たちを見ると同時にそれは見られてもいるという入れ子構造。役者も鬼力多し。お金なんてものでこんな体験ができるのはホントだ。歌が生きている。実に演劇だ。11月法政大公演の実現を祈る。
- 28日 「女と男の名誉」J・ニコルソン K・ターナーという魅力的顔合わせ  
(渋谷) なのにセクシーでもなくサスペンスにもならずた。面白かった。  
「アレタリニアの犬」12年振りくらいか。何度見ても刺激的で面白い。スプラタムビーでその手のシーンには免疫ができてはいる若い人が冒頭の眼を切り裂くシーンで悲鳴をあげていた。覚えているより喜劇的だった。(スプラタムの影響大なり) フェニエルの部分とS.タリ部分。映画に出てくるタリがとても若い。いかにも女なれてないよう。処女作に全てが含まれる。「銀河」キリスト教の問題である。そしてやはり喜劇でもある。時間・空間の概念を超えて矛盾した教えが駆け巡り、キリストが走る。キリスト教の、「なぜ神様は人間を草食にしなかったの？」動物は人間に食べられるために存在しているのさ」という傲慢さ、魔女狩りなどのカサにかけたやり口に嫌悪をいだきつつ、マリアはキリストを生んだ後も処女だった等の、ナンセンスかつ頑固な教理の多様性正をからかいつめい目の眼に唾を吐きつけて癒すシーンにみられるように、キリストを普通の人間として描きつつ、(結局奇蹟とは待たれている人の心の中にあるもの) この映画の最も美しいシーン、カド侯爵に誘われる少女の「それでも神は、ほむという無垢なる叫び、或は聖母マリアの顕現(これにより信仰を失った信道士はそれを取り戻す)の場」にみられるような。(今は矢われてほむ) 宗教へのあつい思いを、実は、フェニエルも持っているのではなからうか。「科学やテクノロジーに対する憎悪が私をより合理的な宗教へと何かさせる」というセリフが彼の本音か。「無神論者であることと神に感謝する」(フェニエル)とはいうものの。

9月12日の毎日新聞に「遺族の一言(訴えたいこと)」が載っている。275の回答を多い順に並べると、日航増し(32)2度と起こすな(29)どうしたらいいかわからない(21)返して(19)早く原因究明を(16)あきらめた(15)安全性高めて(13)何もいうことはない(12)腹が立つ、くやしい(12)整備していれば(11)ええとしておいてほしい(10)など

大別すると日航への怒りと呆然自失の状態という二つの意見にわかれるが、原因究明をというのはいくつかある。これも怒りの変型なのだろうか遺族にしてみれば原因がわからなければ、2度と起こすなと同じようにそれほども人は他人のことをおもえるのだろうか

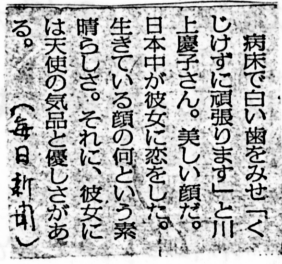
私には「運命やえ恨まない」という気持ちがわからない。「何を訴えても命は戻らない」ことは事実だが、それでは小乗ではなからうか。原因究明のあいまいさが「2度と起こさずまい」はずの事故の繰り返しにつながるのではない。

この日本人のあきらめのよさは宗教の悪影響? ボ社は自国の飛行機に對してもあのような修理をしたのだろうか? 事件直後に現場に入っていた日航の整備士達は何をしていたのか? しりもち事故をおこしたパイロットは今何を? TVによると機長「がんばれよ」部下「はい」機長「おまえ、いい男だぞ」という会話が、たうだが読売新聞ではそれは「頼もしい男」という意味の言葉をかけて励ます」に、なっていた。この会話にちょっとひかかるところがあるけど、いろいろ知りたいことのあるけど、マスコミは、当事者として考えてみるとええとしておいてほしいというのはやめろかい表現で「うらやましい」といってしまいたい。ことにTVの図々しさはひどい。まありのものをなめたおしていくごうまんな暴力。暴力

といえは三浦逮捕の時に報道陣がつかつてしまったホテルのライターは誰か弁償したのだろうか!

三浦容疑者の全裸写真を公開したのもカチにかけたやり方だ。(ところで9/15号のプレイヤで堂々と隠れ写真を載せてた)。もういっしょの傾向があるように、なしくずし的になしくずされてゆくのだろうか)

陰毛が見えたところでどうってことはないので、どこかでは規制があるから一方では言われる所もあるというのはおかしい。芸術だからとか自然だから認めよというへア一論争もあつた。もうひとつ新聞における乳首写真の問題がある。広告の中(映画・雑誌等)では乳首は隠さなければならぬが記事の中でいい。たとえば海外ニュースのトップス写真とかスポーツ紙なら映画の宣伝フォト写真などは言われてしまうというにかけた論理がまかりとあつて、いふのは異常である。(これは日刊ゲンダイなどを除いた新聞協定加入社に限ったことか)



もっと死んだ人に目を向けるべきではないか。美しくありあげられてしまつた川上さんはいい迷惑だ。無理に笑わせ、早く

忘れさせたがり元気をたせという僭越さ。笑顔ではなく悲顔怒顔をこき報道すべではない。彼女は顔で差別されている。スカートの奥のぞく(ぞく)遺書も、公開しなきゃならないものもあるまいし。自分の会社宛に遺書を遺していった人がいなくなったことにびっくりしていった人がいたのにはびっくりした。



## 二十日鼠 綺譚

夜、眠ると、朝がきた。けれども眠っている私は、それに気がつかず、眠っている私は、変なことに気がついた。

フクフク ジグズグ フホ、 ギリギリ ミジフツクム

と誰かの耳元で囁いているのだ。眠っていた私は目が覚めた。目が覚めた私は目を開けた。

白い綿毛のかたまりがうごめいている。それはま、赤い眼とピンクの尻尾を持っていた。それは寝耳に鼠だった。

鼠は寝ずの番をして朝になるのを待っていたのかな。

私達の念が、彼をトランスポーションさせたのだ。

彼はその前日まで、上野動物園内水族館4階にある蛇の檻内に住んでいた。

10月1日 都民の日、無料公開につられて私達はそこを訪れた。いよいよ待望の最上階の爬虫類セクションにたどりついたらそこはお食事時だった。

枯木のウロに潜むトグロの蛇、その木の先端には小学生の仲よし組のように肩を寄せあいうすくましている二十日鼠二匹。それは死んでいるようにじっと動けなかった。蛇ににらまれた鼠もショックで硬直していたのか。

そして隣の檻も違、た蛇がおり、ここに問題の二十日鼠の登場となる。彼はとても活発に動きまわっている。自分の役割がなんであるのかなど考えることもなく。そして木の陰にどこか肩でどこか背中かわからないけれどとにかく身体を寄せあいうすくましている蛇二匹。やがて一匹かの、そりとしかしなめらかに身体をのびし鼠の方へ忍び寄る。しかし途中で方向転換するとうしろの壁の隅へ行ってしまう。鼠は助かたと思う向古なくみすみからみすみ蛇の方へ進む。蛇のあとを追う鼠。見ず知らずのふりをして身のほど知らずの奴こんな時思わず鼠の味方をしてしまった私達のあさはかさ。以前見た映画で「私の友達、ボア」というのがあって、大蛇が鼠を餌食にしてゆく過程を克明に撮影しているものゝ人だけけれど、最後にその蛇を抱きとり、



画面のこちらをみつめる作者の表情に、そうしなければ生きてゆけない  
生き物をもつめる人のつらさといったものを読みとってほしいのだが。  
とにかく私達が見ている間は蛇は喰われず鼠は喰われなかった。  
その時の鼠への思い入れが部屋の中に彼を運んできたというのは  
ちょっとありえないことか。それで他の理由を考えてみると普通の  
鼠色の鼠は小さい頃家にもたくさんいたけれどこんな白いのが野  
性化しているとは思えないし大体階段をのぼって部屋に入ってくる  
とは考えられない。そこで猫の出番となる。我が家の猫は雀、  
トカゲ、ヤモリなどをおみやげにしている前歴があるので最も考え  
られる。扉を開けてきたものを部屋の中で逃がしてほいたんすの  
裏にでも隠れていたか。そこで一晩眠って朝六時起床となった  
のか。それにしては噛まれたあとがない。多少背中あたりの毛がけ  
げていたが全く傷は臭っていないようだ。また猫がとってきたとし  
も、こんなペットとして飼われるようなものを一体どこから?と思う。  
彼はしばらくは我が家の食客として滞在するだろう。どのようなもの  
をお食べになるのか。私は、高校の時、生物部員だった。(そこでラット=白大鼠  
に対して悪魔のような所業を為していたことを悔恨と共に思い出す)クワでは  
マウス(つまり我が家の食客と同じ鼠々)も飼われている。そして時によると、  
恐ろしいことには、彼らのエサは彼ら自身でもあった。檻の中に幽閉されてるス  
トリス。ビュグとあだ名された特に兇暴な一匹の食鼠鬼の鼠の存在がその  
原因でもあったらうが、その凄惨な聖餐の光景は忘れがたい。

### ★ 九月の内出

「殺しのデュエット」エリオットウェスト 典型的な中年の苦さにあふれたハード  
ボイルド。合格点ではあるが美しさに達するにはいまひとつ。

「ゲートル・エンジャー・バーン」ホフスター エンジャーの絵の中に入っていてほう  
登場人物たち。蟹のカノンにおける回文型式。会話部分だけ読ん  
だだけだけど十分に楽しめた。

「筒井康隆はこう読めぬ逆襲」平岡正明 この人の強気の論旨はいつも  
おもしろいのだが、空手をやっている彼の健康さが、筒井の誰もが持ちうる病  
的の部分と理解する上での妨げになっているのでは。

「礼儀正しい思想」上杉清文 特異な僧侶のお笑い思想。釈迦74-論長  
他に「僕がしゃべった語をしゃべった頃」高橋源一郎「詠まはば二度死ぬ」内藤陳  
「檻」北方謙三「たけし呼ぶる、ビートたけし」三浦テイルも撃つおすけビートなど